

TCER のサーバー上に標準的なメール・アドレスを持つことで、大学または自宅のメールへの自動転送サービスを行うようにする、というアイデアもあります（これも NBER の真似です。）したがって、現在のように、各大学ばらばらのメールアドレス方式をいちいち覚えたりする必要がなくなります。たとえば、Takatoshi.Ito@tcer.ne.jp と書くと、私の大学のメール・アドレスに自動転送する、というものです。

このホーム・ページ、その上での Working Paper の刊行、そしてメール転送サービスは、近々実現できると思います。また、それにあわせて、新しく TCER のロゴを作成しようと計画しています。より身近な TCER を目指しています。

これからは、会員からの積極的な提案も取り入れて、TCER の活動をいっそう活性化していきたいと願いつつ、次期執行部に引き継ぎたいと思います。（伊藤隆敏）

2 .TCER 研究会

2003 年度の TCER 研究会は一橋大学にて行われました。8 月以降のスケジュールを掲載します（敬称略）。

日時：2003 年 9 月 11 日（木） 午後 4:30～6:00

報告者：Kosuke Aoki 氏 (CREI, Universitat Pompeu Fabra and CEPR)

テーマ：“Rule-Based Monetary Policy under Central Bank Learning” (joint with Kalin Nikolov)

場所：一橋大学経済研究所 4 階 会議室

日時：2003 年 10 月 14 日（火） 午後 5:00～6:30

報告者：Lee Bransttetar 氏（コロンビア大学）

題名：“Do Stronger Intellectual Property Rights Induce More Technology Transfer: Evidence from U.S. Multinationals”

場所：一橋大学経済研究所 4 階 会議室

日時：2003 年 12 月 5 日（金） 午後 4:30～6:00

報告者：Ann Carlos 氏 (University of Colorado)

題名：“Purchasing Strategies: Royal African Company Trade, 1670-1699”

場所：一橋大学磯野研究館 2 階小集会室

日時：2003 年 12 月 9 日（金） 午後 4:30～6:00

報告者：James Markusen 氏 (University of Colorado)

題名：“Developing Domestic Entrepreneurship and Growth through Imported Expertise”

場所：一橋大学第2研究館217号室

日時：2003年12月16日(火) 午後4:20~6:00

報告者：大橋 弘 氏(東京大学大学院経済学研究科)

題名：“Model Product Entry Under Uncertainty: The U.S. Video Game Software Market”

場 所：一橋大学磯野研究館2階小集会室

日 時：2004年2月12日(木) 午後3:30~5:00

報告者：外谷 英樹 氏(名古屋市立大学経済学部)

題名：「アジア諸国の均衡為替レート」

場 所：一橋大学国際共同研究センター (IJRC)「研修室1」(小平キャンパス)

日時：2004年3月3日(水) 午後4:30~6:00

報告者：Shlomo Weber 氏(サザン・メソヂスト大学)

テーマ：“The Rawlsian Principle and Secession-Proofness in Large Heterogeneous Societies”

場所：一橋大学 磯野研究館2階：研究小集会室 (Room215)

3. TCER コンファレンス報告

(1) TCER コンファレンス「アジアの通貨危機 V: 新しいチャレンジと可能性」

共催：ワシントン大学

日時：2003年12月9-10日

場所：韓国 Kangwon 国立大学

概要：Kangwon 国立大学およびワシントン大学との共催で、内外からの経済学者を招き、危機前後の東アジア諸国経済を理論的・実証的に分析した。なぜ東アジア諸国で経済危機が発生したか、その再発を防ぐにはどうすればよいかなど、政策的に重要な課題を経済学の観点から活発な議論が展開された。東アジア諸国は、インドネシアを例外として、99年、2000年とおおむね順調な危機からの回復を遂げた。しかしながら、97年の経済危機はきわめて深刻なものであり、その後遺症は巨額の不良債権などという形で今日でも大きな陰をそれらの国々に残している。このため、なぜ東アジア諸国で経済危機が発生したか、その再発を防ぐにはどうすればよいかを、経済学の観点から厳密に議論しておくことは大変重要なことである。本コンファレンスでは、「アジアの通貨危機 V: 新しいチャレンジと可能性」(Asian Crisis V: New Challenges and Opportunities for the Post-Crisis Asia)と題して、危機前後の東アジア諸国経済を理論的・実証的に分析した。コンフ

アレンスの詳細は、<http://faculty.washington.edu/karyiu/confer/kangwon03/index.htm> を参照のこと。

日本からの参加者

小川英治(一橋大学)、川崎健太郎(東洋大学)、大野正智(福島大学)、塩谷雅弘(大阪国際大学)、
福田慎一(東京大学)

なお、日本からの参加者の費用は、すべて科学研究費(研究課題名:国際比較可能な国際金融理論の構築とデータの基盤整備、研究代表者:福田慎一)によってまかなわれた。

(2) 第4回 TCER-CIRJE マクロコンファレンス

TCER は 1999 年から、東京大学経済学部付属の日本経済国際共同研究センター(CIRJE)と共催で、日本のマクロ経済の実証研究をテーマとするコンファレンスを開催している。第5回にあたる今年度のコンファレンスは、2003年9月27日(土)に、東京本郷の学士会館文官で開催され、30名を超える参加があった。例年通り、幹事3人(林文夫(東大)、チャールズ・ホリオカ(大阪大学)、有賀健(京大))の協議により、多数の応募論文の中から6本を選んだ。このコンファレンスのフォーマットは、各セッションの時間を、論文の著者によるプレゼン・指定討論者による論文の要約と批判・参加者を交えた討論、に3等分というものであるが、今回もこのフォーマットがうまく機能し、活発な議論が交わされた。プログラムの詳細は以下のとおりである。

セッション(1) 9:40-11:20

稲葉大・小林慶一郎、

「金融システムの不安定化と実体経済への波及」

K. Kobayashi,

“A Theory of Banking Crisis”

討論者 竹田 陽介(上智大学)、トニー・ブラウン(東大)

11:20-11:30 休憩

セッション(2) 11:30-12:30

R. Braun, D. Ikeda, and Doug Joins,

“Saving and Interest Rates in Japan: Why They Have Fallen and Why They will Remain Low”

討論者 岩本 康志(一橋大)

12:30-13:30 昼食

セッション(3) 13:30-14:45

黒田祥子・山本勲、

「名目賃金の下方硬直性が失業率に与える影響 - マクロ・モデルのシミュレーションによる検証」
 討論者 太田 聡一 (名古屋大学)

14:45-15:00 休憩

セッション (4) 15:00-16:15

H. Naito and Ken Yamada,

“Neutrality Theorem Revisited: An Empirical Investigation of Public Goods Provision”

討論者 林 文夫 (東大)

セッション (5) 16:15-17:30

安藤浩一・斉藤誠・堀敬一,

「1990年代における日本の企業金融の動向 - 財務データを用いたパネル分析」

討論者 福田 慎一 (東大)

3) 16th ANNUAL TRIO CONFERENCE

TCER が毎年、米国の NBER、ヨーロッパの CEPR 及び経済産業研究所 (RIETI、昨年度から) と共催している第 16 回目の TRIO コンフェレンスは 12 月 8 日 (月曜) と 9 日 (火曜) にアーク森ビル 36 階で行われた。今年のテーマは退職のファイナンス (Financing retirement) であり、以下に例示する分野での研究論文が提出され、約 25 名が参加をして活発な討議を行った。

- (1) リバース・モーゲージの可能性
- (2) 年金プラン (DB 対 DC) 及び資金運用の評価
- (3) 国際投資と移民の役割

欧米の学者からの提出論文を含めて、7 本の論文が提出された。なお、NBER からの申し入れにより、今回のコンフェレンス論文も改訂後に NBER のワーキングペーパーとなることになった。

プログラム

Organizers: Toshiaki Tachibanaki, Kyoto University, TCER and RIETI ;

Takeo Hoshi, University of California, San Diego, NBER and RIETI;

Sadao Nagaoka, Hitotsubashi University and TCER

MONDAY, DECEMBER 8:

9:30 AM Welcome, Organizers

Chair: Toshiaki Tachibanaki, Kyoto University, TCER and RIETI

9:40 AM John Piggott, University of New South Wales and Olivia Mitchell, Wharton School, University of Pennsylvania,
 “Unlocking Housing Equity in Japan”
 Discussants
 Miki Seko, Keio University and TCER
 Etsuro Shioji, Yokohama National University and TCER

- 11:00 AM Frank de Jong, Universiteit van Amsterdam(*)**
 “Pension Fund Investments and the Valuation of Liabilities under Conditional Indexation”
- Discussants
Toni Braun, University of Tokyo
Keisuke Ito, Mizuho-DL Financial Technology Co., Ltd.
- Chair: Fumio Hayashi, University of Tokyo and TCER**
- 1:20 PM Toshiaki Tachibanaki, Kyoto University, TCER and RIETI**
and Tomohiko Takeuchi, Kyoto University
 “The Differences in the Economic Effects between DB and DC PLans”
- Discussants
Hiroshi Fujiki, Bank of Japan and TCER
Masaharu Usuki, NLI Research Institute
- 2:20 PM Break**
- 2:40 PM Robert Dekle, University of Southern California**
 “Financing Consumption in Aging Japan: Social Security, International Capital Flows, and Immigration”
- Discussants
Toshihiro Ihori, University of Tokyo and TCER
Makoto Saito, Hitotsubashi University and TCER
- 3:40 PM Takashi Oshio, Tokyo Gakugei University and TCER**
 “Social Security and the Trust Fund”
- Discussants
Yasushi Iwamoto, Hitotsubashi University and TCER
Charles Yuji Horioka, Osaka University, TCER

TUESDAY, DECEMBER 9:

- Chair: Takeo Hoshi, University of California, San Diego, NBER and RIETI**
- 9:30 AM Pierre Pestieau, CREPP and Universite de Liege(*)**
 “Social Security and the Well-being of the Elderly”
- Discussants
Tokuo Iwaisako, Hitotsubashi University
Robert Dekle, University of Southern California

10:30 AM Break

10:45 AM **Kohei Komamura, Toyo University, and Atsuhiko Yamada, Keio University**
“Who Bears the Burden of the Social Insurance?”

Discussants

Takero Doi, Keio University, TCER and RIETI
John Piggott, University of New South Wales

11:50 AM Closing remarks by organizers

(4) TCER プロジェクト (旧返子コンファレンス)

通貨制度研究会 (代表: 福田慎一・小川英治) の主催により、今年度は2回の研究集会を計画しました。第1回は平成15年8月6日(水)に函館において開催されました。これまでに3回の予備コンファレンス(この内の2回は昨年度、平成14年7月26日(金)に台北で、そして、平成15年3月15日(土)・16日(日)に鹿児島で行われた)を行ってきましたが、今年度末に最終コンファレンスを高知(高知県教育会館高知城ホール)で開催する予定です。

最終コンファレンスのプログラムは以下のとおりです。

平成16年3月14日(日)13:00~17:40

座長: 河合正弘 (東京大学)

13:00 - 13:50

“The Political Economy of Currency Crisis”

報告者: 高木信二 (国際通貨基金)

コメンテーター: 竹森俊平 (慶應義塾大学)

13:55 - 14:45

“Credit Crunch in East Asia: A Retrospective”

報告者: 高阪章 (大阪大学)・塩谷雅弘 (大阪国際大学)

コメンテーター: 武田史子 (横浜市立大学)

15:00 - 15:50

「アジア通貨・株価の伝播 Contagion - High-Frequency での連動性」

報告者: 伊藤隆敏 (東京大学)・橋本優子 (東洋大学)

コメンテーター: 川崎健太郎 (東洋大学)

15:55 - 16:45

“Consumption smoothing, home bias in preferences, and the effects of a yen depreciation on Asia”

報告者：塩路悦朗（横浜国立大学）
コメンテーター：宮尾龍蔵（神戸大学）

16:50 - 17:40

「為替相場のボラティリティが国際貿易に与える影響」
報告者：熊本方雄（東京経済大学）
コメンテーター：塩谷雅弘（大阪国際大学）

平成 16 年 3 月 15 日(月)9:00～

座長：小川英治（一橋大学）

9:00 - 9:50

“Possibility of Creating a Common Currency Basket for East Asia”

報告者：小川英治（一橋大学）・川崎健太郎（東洋大学）
コメンテーター：奥村綱雄（横浜国立大学）

10:00 - 10:50

「為替レートのパス・スルー低下：わが国輸入物価による検証」
報告者：大谷 聡（日本銀行）
コメンテーター：佐々木百合（明治学院大学）

10:55 - 11:45

“Exchange Rate Regimes in East Asia after the Crisis: Implications from Intra-daily Data”

報告者：福田慎一（東京大学）
コメンテーター：橋本優子（東洋大学）

11:45-12:00

総括コメント
河合正弘（東京大学）

(5) 第 14 回 NBER-TCER 東アジア経済セミナー

第 14 回目にあたる 2003 年は International Trade をテーマとし、台湾の Chung-Hua Institute for Economic Research と Academia Sinica をホストとして 9 月 5-7 日(SARS の流行のため当初の予定より 3 ヶ月延期された)に台北で開催された。オーガナイザーは伊藤隆敏(東京大学)と Andrew Rose 教授(カリフォルニア大学バークレー校)であった。共催者の一つである TCER 側の担当者は深尾京司(一橋大学)が務めた。日本からは他に木村福成氏(慶応義塾大学)、伊藤恵子氏(国際東アジア研究センター)、清田耕造氏(横浜国立大学)、安藤光代氏(慶應義塾大学)が参加した。報告論文の多くは The University of Chicago Press から出版される本“International Trade, East Asia Seminar on Economics Volume 14”に収録される予定であり、改訂中の草稿は <http://www.nber.org/books/ease14/index.html> からダウンロードすることができる。第 15 回は 2004 年 6 月に東京で開催される予定である。

(6) TCER ミクロコンファレンス

今年度のTCERミクロコンファレンスはディセントライゼーション(DC)コンファレンスと共同開催の形で、10月11日(土)に東京工業大学(大岡山キャンパス)にて行われた。

午前中は、9時30分から12時20分まで、2つのセッションを並行して行い、それぞれ3本の論文が報告された。午後のセッションは、まず、1時40分から2時30分まで、岡田章教授(京都大学経済研究所)による招待講演が行われた。その後、2時40分から4時30分まで論文報告がなされ、これも2つのセッションを並行して行い、それぞれ2本の論文が発表された。最後に、4時50分から5時40分まで、山崎昭教授(一橋大学経済学部)による招待講演が行われた。報告時間はいずれも質疑を含めて50分であり、途中で休憩を10分とった。総参加者数は約70名で、各セッションで活発な議論が行われ、大変有意義なコンファレンスとなった。

プログラム委員や発表論文のタイトルは以下の通りである。

プログラム委員

大瀬戸真次(東京都立大学), 梶井厚志(大阪大学), 神谷和也(東京大学), 中村慎助(慶応大学), 武藤滋夫(東京工業大学), 大和毅彦(東京工業大学)

午前の部 9:30~12:20

セッション1(A会場)座長:大瀬戸 真次(東京都立大学経済学部)

福田 恵美子(東京工業大学社会理工学研究科博士課程)

“Compromising in Partition Function Form Games and Cooperation in Perfect Extensive Form Games”

篠原 隆介(一橋大学経済学研究科博士課程)

“Coalition-proof Equilibria in a Voluntary Participation Game”

松林 伸生(NTTコミュニケーションズ)

“A Network Formation Game with an Endogenous Cost Allocation Rule”

セッション2(B会場)座長:中村 慎助(慶應義塾大学経済学部)

巽 靖昭(慶應義塾大学経済学部研究生)

“On Ranking Opportunity Sets in Terms of Freedom of Choice - An Approach by a Majority Rule”

尾山 大輔(東京大学経済学研究科・学振PD)

“Monotone Methods for Equilibrium Selection under Perfect Foresight Dynamics”

工藤 教孝 (関西大学経済学部)

“A Search-Theoretic Model of Money as a Store of Value”

午後の部 1 : 4 0 ~ 5 : 4 0

招待講演 (A 会場) 座長 : 武藤 滋夫 (東京工業大学社会理工学研究科)

岡田 章 (京都大学経済研究所)

“Risky versus Riskless Bargaining Procedures: The Aumann-Roth Controversy Revisited”

セッション 3 (A 会場) 座長 : 渡辺 隆裕 (東京都立大学経済学部)

宇井 貴志 (横浜国立大学経済学部)

“Incomplete Information Games with Common Multiple Priors”

金子 守 (筑波大学社会工学系)

“Modeling A Player’s Perspective I: Info-memory Protocols”

セッション 4 (B 会場) 座長 : 神谷 和也 (東京大学経済学部)

康 聖一 (横浜市立大学商学部)

“Cognitive Error and Disclosure Regimes”

胥 鵬 (法政大学経済学部)

「私的再建と法的破綻処理の選択」

招待講演 (A 会場) 座長 : 梶井 厚志 (京都大学経済研究所)

山崎 昭 (一橋大学経済学部)

「Incentive Compatible Core について」

編集後記

2003 年度 2 号目のニューズレターをお送りいたします。例年よりやや発行が遅れましたことをお詫び申し上げますと共に、お忙しい中、執筆下さった理事の方々に感謝申し上げます。また、すでにお知らせしましたように会員登録情報の更新を受け付けております。情報更新にご協力をお願いいたします。

Newsletter に関するご意見やご感想は、代表理事 伊藤隆敏 tito@rcast.u-tokyo.ac.jp ,
または総務理事 玉田康成 tamada@econ.keio.ac.jp までご連絡下さい。